

Air Traffic Controller 航空管制官



「チームワークで安全をつないでいく仕事」それが航空管制官です。

空の安全に関わる多くの仲間と連携し、あらゆる状況に柔軟に対応しながら、
24時間・365日安全で効率的な航空機の運航を支えています。

主な3つの管制業務

01 飛行場管制業務

空港を中心に約9km圏内を担当し、空港にある管制塔から目視により航空機を確認します。空港を離着陸する航空機や空港の周辺を飛行する航空機、空港内を移動する航空機に対して、離着陸の許可や飛行の方法、走行する経路等を指示を発出して安全を支援する業務です。



02 ターミナル・レーダー管制業務

空港から約100km圏内を担当し、レーダーを使用して、航空機同士の間隔を維持しながら、高度や磁針路を指示する業務です。空港からの離陸機に対しては上昇飛行を指示し、空域に入域した到着機に対しては着陸の順序を決めた上で、降下飛行を指示します。



03 航空路管制業務

主に巡航中の航空機に対し、レーダーを使用して高度や飛行経路の指示や許可を発出する業務です。国内を離着陸する航空機だけでなく、海外から海外へ飛行している通過機にも同様に管制業務を提供します。



求める人物像

冷静さと責任感

～どんなときでも落ち着いて
判断を下せるか～

航空管制官が無線を通じてパイロットに伝える言葉には大きな責任が伴います。どのような状況においても責任感を持って適切な判断を瞬時に下す力が求められます。

協調性

～チームの一員として
活躍できるか～

航空機の運航はたくさんの人々の力に支えられています。日頃から自発的に行動し、チームメンバーと連携して業務に臨む姿勢が必要です。

学び取る力

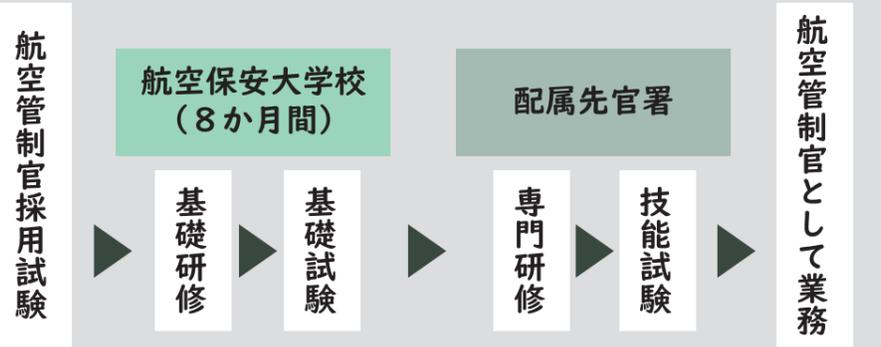
～自己研鑽できるか～

航空管制官は、空港施設、飛行の方式や業務に関連する規定が改正されるたび、新たな知識や技術を習得します。変化を恐れず向上心を持って学び続けることが必要です。

航空管制官になるには

航空管制官採用試験に合格し、国土交通省に入省すると、まず航空保安大学校にて8か月間の基礎研修を行います。

基礎研修修了後は、全国の空港や航空交通管制部等の管制機関に配属され、OJT(実地研修)を含む専門研修を行います。専門研修の修了後、技能試験に合格して初めて航空管制官に任命されます。



勤務地とキャリアパス

航空管制官の勤務地は全国各地にあります(右図参照)。業務に必要な資格は勤務地ごとに異なるため、異動をすればどんなにベテランでも一定期間の訓練を受け、改めて内部試験に合格する必要があります。

様々な勤務地での経験は航空管制官としてのスキルアップに繋がりますし、多くの仲間と出会えることは人生の大きな糧となります。どんな状況でも、うまく自分を動機付けし、仕事を楽しめる人材を求めています。

航空管制官は管制機関以外にも東京の国土交通本省や東京・大阪の各地方航空局での企画立案、航空保安大学校等の教育機関、システム開発評価・危機管理センターでの管制システムの開発評価、国際機関への派遣等、様々な活躍の場が用意されています。



※2025年12月時点

勤務体系

24時間交替で管制業務を実施している官署においては、早番・早番・遅番・夜勤入り・夜勤明け・休日の6日を一つのラウンドとして、それを繰り返すパターンが基本となります。時間限定運用の空港には夜勤がありません。

休日は「一般職の職員の勤務時間、休暇等に関する法律」に規定されているとおりに取得できます。

また、航空管制官の業務に伴う疲労を管理する基準及びシステムを導入しており、勤務間インターバルや業務の交替間隔等を管理しています。

航空管制官公式HPと航空保安大学校HPに、情報がまだまだたくさんあります。ぜひ、チェックしてみてください。



航空管制官公式ホームページ

航空管制官 公式 検索



航空保安大学校公式ホームページ

航空保安大学校 検索



職員インタビュー

○様々な仕事の中でなぜ航空管制官を選びましたか？

幼少期から英語を使って働くことに憧れを持っていました。大学受験を控え真剣に将来のことを考えるようになった頃、色々な職業を調べているうちに見つけたのが航空管制官でした。その専門性の高さ、この仕事でしか経験できない業務内容に惹かれました。自身の性格とも合うのではないかと漠然と感じ、航空管制官になることを決めました。

○航空管制官として働く中で感じていることを教えてください。

自分の発する言葉ひとつずつに責任を持たなければならないと、日々痛感します。上空の天候や機内の状況を実際に見ることができない分、レーダー画面から得られる情報を注視し、パイロットのリクエストに最大限応えようと努力します。仕事を終えると一日が無事に終わったことへ安堵すると同時に、もっとスキルアップしたいという気持ちになります。責任がある分やりがいを感じることができると思います。

○職場の雰囲気はいかがですか？

穏やかで、いわゆる”風通しのいい職場”だと感じます。年齢や経歴に関係なく対等に意見を言い合える関係を構築することは、安全に業務を行う上で大切なことだと思います。よく声をかけてくれ耳を傾けてくれる先輩方のおかげで、引っ込み思案な自分も臆せず言葉を発することができます。そして自分も、周りから声をかけやすく意見を言いやすい存在であるために努力しようと思えます。

○若手としてチームのために貢献していることはありますか？

新人や訓練生と先輩方の橋渡しになっていると思います。自分が現場に配属されたとき、ベテランの先輩方と同じ土俵で直接仕事を教わることにかなり緊張しましたが、比較的年齢の近い先輩が目線を合わせて声をかけてくれたことが大きな安心材料となりました。そのことが他の先輩方と打ち解けるきっかけにもなったと感じています。今の自分も若手として、少なからずそんな風に誰かの緩衝材になれているのではないかと思います。

○未来の航空管制官にメッセージをお願いします。

責任のある仕事で世間からの注目度も高いけれど、その分やりがいのある仕事です。誰かの役に立っていると直に感じるができます。自身の努力次第で実力がつき、成長を実感できるのも嬉しいことです。入省してから、現場配属されてから、そして今もなお、日々学びの連続です。英語が得意でなくても、専門的な知識がなくても、その学ぶ過程を楽しんでほしいです。

○航空管制官を目指すきっかけは何でしたか？

パイロットを目指していた時期もありましたが、航空身体検査に合格できないことが分かり、断念しました。その時からパイロット同様に航空業界での専門性の高い職種であり、レーダーや航空無線を駆使して直接的に航空機の運航に携わることができる航空管制官を本気で目指そうという気持ちになりました。

○他の職歴もあるとのことですが、航空管制官になって感じていることを教えてください。

輪番勤務という働き方により、基本的に定時退勤が可能であるため、ワークライフバランス的にも仕事と私生活を両立しやすい仕事だと感じます。現場への配属までは輪番勤務によって生活が不規則になることが不安でしたが、勤務日・公休日を含めて一定の周期で同じ勤務パターンが繰り返されるため比較的規則正しい生活ができており、退勤後に運動や自炊をする時間も確保できて健康的だと感じています。

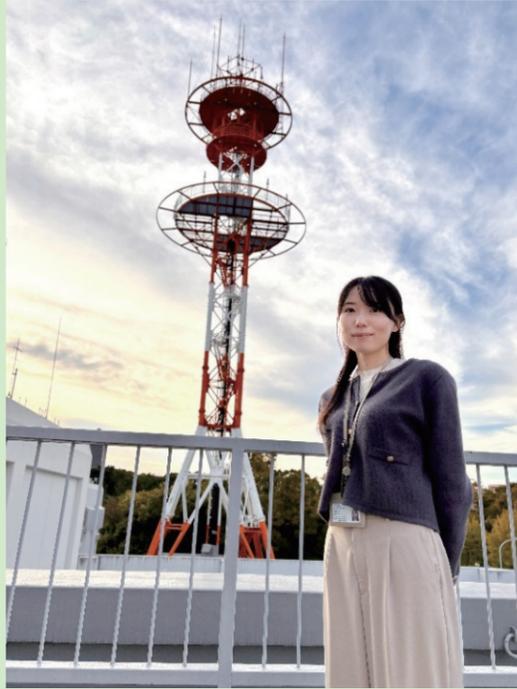


那覇空港事務所

航空管制官 **知花 尋**

令和元年8月 採用

令和2年3月 航空保安大学校修了



東京航空交通管制部

航空管制官 **大塚 周**

平成31年4月 採用

令和元年11月 航空保安大学校修了



東京空港事務所

主幹航空管制官 **石川 大記**

平成20年4月 採用

平成20年9月 航空保安大学校修了

○管制業務の魅力を教えてください。

飛行場管制業務では航空機の離着陸に係る指示を行うため、秒単位の判断や決断が求められるなど心理的な負荷が高く、集中力の維持が必要ですが、そこにやりがいを感じます。また、実際に航空機を目視しながら業務するので迫力があります。ターミナル・レーダー管制業務では、レーダー画面に映し出される航空機や気象などの情報から状況の変化を感じ取り、到着機の大きな流れを作るために指示を出していく点に難しさがありますが、うまく流れが作り出せた時は達成感があります。

○これまでの経験で「いま役立っている」と思うことはなんですか。

風向きなどに応じて、航空機が使用する滑走路を変更する必要があります。その際、効率的な運航を維持するため、飛行場管制官とターミナル・レーダー管制官との間で、滑走路変更のタイミングを調整しています。互いの業務状況を踏まえて、スムーズな調整を行う必要があるため、飛行場管制業務の経験が役に立っています。

○航空管制官の仕事をする上で大切なことは何だと思いますか？

「パイロットとの交信」「他機関との調整」「チームワークの発揮」これら全てで相手の意図を汲み取り、自分の判断を分かりやすく伝えることが必要なため、状況判断能力とコミュニケーション能力が大切だと思います。個人的に大事にしていることとしては、何か違和感に気付いた時に行動に移すことです。安全のためには早めに対策を取ることが重要だと考えているためです。

○未来の航空管制官にメッセージをお願いします。

航空管制官は、パイロットに指示や許可を発出することで、空に航空機の流れを作っていきます。何年たっても航空機に指示するのは緊張感がありますが、その分、航空機の流れをうまく作れた時は達成感があります。日本の空を支える一員として、ぜひ航空管制官を目指してみてください。

○プライベートと仕事の両立について教えてください。

飛行場管制業務、ターミナル・レーダー管制業務に従事しており、それ以外に事務作業がありますが、仕事とプライベートはメリハリがあります。プライベートでは産まれたばかりの子供との生活を楽しみながら、妻と共に育児に奮闘しています。また、鹿児島は温泉が多くあるので、疲れを癒しに定期的に足を運んでいます。

○育児休業を取得した経験について教えてください。

育児に積極的に関わりたいかったので、出生前の早い時期から育児休業について調整し、育児休業を取得しました。我が子の成長を日々実感でき、とても貴重で大切な時間を過ごすことができました。男性の育児休業取得制度も充実しており、取得が推奨されています。また、取得しやすい雰囲気も醸成されているので、臆することなく取得することができました。

○航空管制官の福利厚生についてどのように感じていますか？

国家公務員であるため様々な福利厚生があります。勤務地が各地にあるため、全国転勤を伴いますが、住居手当が支給されるため安心して勤務できます。また、人間ドック受診の補助や休暇制度、自己啓発やスキルアップのためのオンライン講座などもあり、充実していると感じます。

○未来の航空管制官にメッセージをお願いします。

航空の安全を担う仕事として責任を伴いますが、その分やりがいがあります。このリーフレットがきっかけとなり、航空管制官という仕事に興味を持っていただき、チャレンジしていただけたら嬉しく思います。どこかで一緒に働けることを楽しみにしています。もし、どこかで私を見つけたら是非声をかけてください。



関西空港事務所

次席航空管制官 **箕田 純子**

平成8年10月 採用

平成9年3月 航空保安大学校修了

○次席管制官の現場での役割を教えてください。

クルーの運用次席として現場の運用を統括し指揮するとともに、クルーメンバーの人事管理も担当しています。現場業務において不測の事態が発生した時は、関係機関との連絡調整に加えて最終的な判断を下す責務を担っています。また、各クルーの次席と情報共有を図り課題解決にあたり、前任航空管制官の補佐も務めます。

○多くの職員を束ねる管理職として、心掛けていることはなんですか？

職員ひとりひとりの考えを傾聴し尊重しつつone teamとして方針を示し、同じベクトルで進むチーム作りです。各職員が担う役割を把握し、各職員に自覚を芽生えさせてモチベーションを向上させることにより、チームにとって必要な存在であることを実感できる場を各職員に提供するように心がけています。

○航空管制官の魅力を教えてください。

自らの判断や指示が交通流形成に反映され、目視あるいはレーダー画面上で実感できることだけでなく、それが複数の管制機関と連携されていくことで膨大な数の航空機の安全で効率的な交通流形成につながっている、というスケールの大きさにも魅力を感じます。空の安全を担う一員として活躍できるのが魅力です。

○未来の航空管制官にメッセージをお願いします。

空を見上げて航空機を見つけると気持ちが高鳴ります。航空管制官は、その航空機が離陸して目的地に着陸するまでの航程に、安全と効率を提供することで密接に関わっています。航空機の交通流をどのように描くかは、あなた次第です。航空の安全を担うメンバーの一員になって、達成感を味わうとともに、夢と希望を与えたい方、航空管制官の扉を開いてみませんか。是非お待ちしております。